

## 2019年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	<b>カジノ導入に伴う治安悪化懸念に及ぼす影響要因の解明</b>
キーワード	①ギャンブル、②カジノ、③心理学

### 研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏名	タカダ タクヒロ 高田 琢弘	所属等	東海学園大学 心理学部 心理学科 助教
プロフィール	<ul style="list-style-type: none"><li>・最終学歴：2016年3月 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士後期課程 心理学専攻 修了。博士（心理学）。</li><li>・主な職歴：日本学術振興会 特別研究員（DC2）、（独）労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 過労死等防止調査研究センター 研究員。</li><li>・専門：社会心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学、労働衛生。</li><li>・研究関心：「人間の行動の合理性・非合理性」に関心があります。「なぜ、人は時として非合理的な行動をとってしまうのか」について、解明していきたいと考えています。</li><li>・主な研究テーマ：ギャンブル行動、過労死等。</li><li>・出身地：栃木県栃木市。</li></ul>		

### 1. 研究の概要

本研究は、日本人成人1505人（男性757人、女性748人、平均年齢：43.62歳、標準偏差：12.06）を対象としたインターネット調査を実施し、「日本国内へのカジノ導入に伴う治安悪化懸念」と関連する要因について解明することを目的とした。具体的には、「カジノ導入への態度」、「ギャンブル障害傾向」、「ギャンブルに関する認知」、「批判的思考態度」、「犯罪に対する認知的反応」、「犯罪に対する感情的反応」、「Big Five パーソナリティ特性」との関連を検討した。

分析の結果、「日本国内へのカジノ導入に伴う治安悪化懸念」が高い傾向の人の特徴として、「世の中の治安が悪くなったと認知している人」、「犯罪に対する不安が高い人」、「神経症傾向の高い人」であったことが示された。また、「日本国内へのカジノ導入に伴う治安悪化懸念」が低い傾向の人の特徴として、「カジノ導入に賛成の人」、「ギャンブルに過度な期待をしている人」、「犯罪に対して楽観的な人」、「外向性の高い人」であったことが示された。

日本国内にカジノが導入された際、「ギャンブル依存症」が増加することも危惧されている。そのような問題を解決する上でも、過剰な行動が生じるメカニズムの解明やギャンブル依存症への臨床的介入方法の提案といった心理学的研究の重要性は、今後益々高まっていくことが予想される。そのため、本研究で示された結果は時代を先駆けたものであり、意義のあるものであると考えられる。

## 2. 研究の動機、目的

現在、日本国内にカジノを中心とした統合型リゾート（Integrated Resort：IR）を導入する動きが進められており、日本のギャンブルを取り巻く状況は大きな転換期を迎えている。IRの導入によって、年間約一兆円の経済効果があるとも言われている。

その一方、日本国内へのカジノ導入に否定的な意見を持っている日本人も一定数おり、その理由の一つとして、「カジノの導入によって治安が悪化する」という懸念を持っていることが挙げられる（大林・生田目、2015）。しかしながら、アメリカのラスベガスのようにカジノの導入によって犯罪件数が減少した事例もあり、この懸念は必ずしも正しくない可能性が考えられる（木曾、2014）。この「カジノ導入に伴う治安悪化懸念」がなぜ生じるのか、またどのような要因が影響するかを明らかにすることによって、人間の行動の非合理性の一端を解明できると考えられる。以上より、本研究では「カジノ導入に伴う治安悪化懸念」とその影響要因に着目して検討を行った。

## 3. 研究の結果

本研究で使用した心理尺度（および項目）は、以下の通りである。

- ・ **カジノ導入に伴う治安悪化懸念**：独自に作成した3項目（項目例：日本国内にカジノができると、社会全体の治安が悪くなるだろう）。
- ・ **カジノへ導入への態度**：独自に作成した1項目（あなたは、日本国内にカジノを作ることについてどう思いますか）。
- ・ **ギャンブル障害傾向**：修正日本語版 South Oaks Gambling Screen 短縮版（木戸他、2019）。項目例：自分自身のギャンブルに関して問題を感じたことがありますか？
- ・ **ギャンブルに関する認知**：日本語版 Gambling Related Cognitions Scale (Yokomitsu et al、2015)。「ギャンブルへの期待」（項目例、以下同：ギャンブルをするともっと楽しくなる）、「幻想的必勝法」（祈ると、勝ちに近づける）、「誤った統計的思考」（ギャンブルで負けていても、必ず当たると思う）、「ギャンブルを断つことの放棄」（ギャンブルがないと生活がうまくいかない）、「偏った解釈」（自分の力や自分なりの方法によって勝てたと考えてしまうので、ギャンブルが続く）の5因子で構成。
- ・ **批判的思考態度**：批判的思考態度尺度短縮版（楠見・平山、2013）。項目例：議論の前提や用語の定義を正確にとらえて考えようとする。
- ・ **犯罪に対する認知的反応**：荒井（2013）で使用された9項目。「治安悪化認知」（社会の治安が悪くなった）、「犯罪被害リスク認知」（自分が犯罪の被害にあう可能性は高い）、「楽観的認知」（自分が犯罪の被害にあうことを考えたことはない）の3因子で構成。
- ・ **犯罪に対する感情的反応**：荒井（2013）で使用された6項目。「社会的不安」（社会全体の治安に対して不安を感じる）、「個人的不安」（自分が犯罪の被害にあうのではないかと不安を感じる）の2因子で構成。
- ・ **パーソナリティ特性**：日本語版 Ten Item Personality Inventory（小塩他、2012）。「外向性」（活発で、外向的だと思う）、「協調性」（人に気をつかう、やさしい人間だと思う）、「勤勉性」（しっかりしていて、自分に厳しいと思う）、「神経症傾向」（心配性で、うろたえやすいと思う）、「開放性」（新しいことが好きで、変わった考えをもつと思う）の5因子で構成。

本研究の主な結果として、以下のことが示された。

- ・ 「カジノ導入に伴う治安悪化懸念」について、5件法（1：全くそう思わない、2：あまりそう思わない、3：ややそう思う、4：かなりそう思う、5：非常にそう思う）で回答を求めたところ、平均値は3.02（標準偏差：1.12）であった。
- ・ 「カジノ導入に伴う治安悪化懸念」と有意な正の相関が見られたのは、「犯罪に対する認知的反応」の「**治安悪化認知**」と「**犯罪被害リスク認知**」、「犯罪に対する感情的反応」の「**社**

会的不安」と「個人的不安」、「Big Five パーソナリティ特性」の「**神経症傾向**」であった。すなわち、これらの得点が高い人ほど「カジノ導入に伴う治安悪化懸念」が**高かった**ことが示された。

- ・「カジノ導入に伴う治安悪化懸念」と有意な負の相関が見られたのは、「**カジノ導入への態度**」、「ギャンブルに関する認知」の「**ギャンブルへの期待**」、「犯罪に対する認知的反応」の「**楽観的認知**」、「Big Five パーソナリティ特性」の「**外向性**」であった。すなわち、これらの得点が高い人ほど「カジノ導入に伴う治安悪化懸念」が**低かった**ことが示された。

#### 4. 研究者としてのこれからの展望

海外の先進国と比較して、日本国内でギャンブルを専門に研究している研究者は多くない。「ギャンブル依存症」に代表されるギャンブルに関連した社会問題を解決していくためには、今後も多様な観点からギャンブルに関する研究を継続していく必要があるだろう。著者自身の展望としては、「ギャンブル中の感情を適切にコントロールするための方法の検討」や「過剰なギャンブルを防止するための教育介入」など、どうすれば過剰なギャンブルを抑制できるかについて引き続き明らかにしたいと考えている。さらに、将来日本国内に本当にカジノが誕生するのか、誕生するとすればいつなのか、カジノによって日本のギャンブルはどう変わっていくのかなど、研究者として中立な立場からそれらの動向を注視していきたい。

#### 5. 社会に対するメッセージ

いわゆる「ギャンブル依存症」（正式名称：ギャンブル障害）は、米国精神医学会のDSM-5で、「本人、家族、および/または職務の遂行を破壊する、持続的で反復的な不適応賭博行動」と定義されている。一回のギャンブルに費やす金額やギャンブルに行く頻度などを自分自身でコントロールできる人もいれば、できない人もいるのが現状である。一人一人が過剰なギャンブルに対する予防法や治療法などの正しい知識を身につけ、ギャンブルの問題に苦しむ人が少ない社会になっていくことを祈っている。



図1. 著者が研究している様子